

市政を問う

代表質問 一般質問

3月定例会における「市長施政方針」に対し、3月2日、3日に6会派が代表質問を行い、市政に関する一般質問は、3月3日、4日、7日に9人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。

(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

※質問、答弁の詳細は6月1日頃から半田図書館・亀崎図書館等に設置された会議録でご覧いただけます。また、市議会ホームページにも掲載します。

※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。



市長施政方針演説 (YouTUBE)



チャレンジはんだ 伊藤正興

問 新年度に向けて市長の決意を伺います。

答 未来へ向けた「変革」の第一歩として、私自身が先頭に立ち、市民・事業者・行政が一体となり新たなまちづくりを力強く進めていきます。

問 新型コロナウイルスの長期化により地域経済が疲弊した場合、再び地域振興券の配布等の経済対策を行う考えはありますか。

答 コロナの感染状況や国・県の支援策などを確認したうえで、商工会議所とも連携を図りながら必要な支援策に取り組んでいきます。

問 行政のデジタル化を進めようとしていますが、具体的に何をどう変えていきますか。また市民にとってのメリットは何でしょうか。

答 行政手続きのオンライン化の拡充と自治体システムの標準化を中心に取組んでいきます。時間や手間の軽減など市民サービスの向上につながります。

問 亀崎地区の無電柱化の目的は何ですか。

答 仲町通りを中心とした良好な景観形成と歩行空間の拡大、災害時の安全な避難路確保です。

問 一日も早く半田北部から新半田病院へアクセスするための「命の道」を開通させるべきと考えますが、見解を伺います。今後、この問題を市長としてどのように対応しますか。

答 関係機関との協議や県への要望を継続的に行っていますが、阿久比町の野崎交差点付近の課題があり事業化出来ない状況です。アクセス道路としてだけでなく重要な幹線道路でもあるため、阿久比町を含めた関係機関との協議や要望を粘り強く行い、早期の事業化を目指します。

問 「(仮称) 幸せになるための教育を考える会議」について、子ども達のために本当に必要と考えていますか。

答 子ども達は、次代を担う宝であり、夢や希望をもって生き抜いてほしいと考えています。自分の幸せとは何かを自ら考え実現する力を身につけることが必要であることから会議を立ち上げるものであり、予算計上しました。

問 市民討議会について、どのように行いますか。

答 無作為抽出で選ばれた市民が、政策課題について話し合い、意見集約して合意形成を目指す市民参加の仕組みであり、令和5年度から実施予定です。

問 令和2年度に策定した、半田市保育園等公民連携更新計画の今後の予定について伺います。

答 原則、建築年月の古い施設から「民営化」「認定こども園化」を基本方針として、次は高根保育園の民営化を検討しています。今後の進捗については3か年実施計画において具現化していきたいと考えています。

問 昨年4月からの家庭系ごみ有料化の導入により、ごみ減量及び資源化実績予測を伺います。

答 ごみ量は、前年度対比27%減少となる見込みです。資源化については、市民の分別意識の高まりで前年度対比15%増加を見込んでいます。

問 高齢者の健康増進に

関係する協定で認知症予防の取組みについて伺います。

答 国立長寿医療研究センターとの協定では、認知予防を目的とするライフスタイルを検証し、高齢者の健康や生活の質の向上に寄与できるように効果的な取組みを進めていきます。

問 新体育館建設について伺います。

答 現体育館の老朽化等を踏まえると、新体育館の必要性は十分認識しています。しかし、建設場所や時期など具体的な計画策定には至っていません。今後、広域での建設の可能性を整理したうえで、建設基本構想の策定に取り組みます。

問 防災・減災対策の一環として、空き家の件数、推移及び対策について伺います。

答 空き家件数は、建物の課税情報や水道の利用量の情報から算出して概ね3千件、推移については、令和元年から横ばい傾向であります。対策は、管理不全の空き家の所有者に改修等に向けた指導をしています。今後は空き家を活用することを考え、遊休不動産を流通させる仕組みづくりを進めていきます。

市政を問う 代表質問 (質問議員が執筆しています)

